北京・ロンドンオリンピック開会式前後のニュース・フレーム
～日本のテレビニュース報道の内容分析～

小　林　直　美
（男女共同参画推進室米沢分室助教）

山形大学紀要（社会科学）第47巻第１号別刷
平成28年（2016）７月

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

論　説

北京・ロンドンオリンピック開会式前後のニュース・フレーム
～日本のテレビニュース報道の内容分析～

小林　直美
（男女共同参画推進室米沢分室助教）

１．はじめに

1．1　研究の目的

スポーツは今日のメディアにおいて不可欠なコンテンツである。特にテレビは映像性、速報性、同時性というメディア特性ゆえにスポーツと親和性が高いといえよう。またテレビは同時に5つのコミュニケーションチャンネル（図、画像、音声、音響効果と音楽）を使用し、スポーツ経験を人々に提供することができる（Kennedy and Hills 2009：71）。日本のテレビ放送黎明期、人々は街頭に設置されたテレビ画面を通じプロ野球、相撲、プロレス等の試合を楽しんだ。そして現在、テレビで放送されるスポーツは、テレビ画面だけでなく、PC、タブレット、スマートフォンなど様々な端末で楽しむことができるようになった。このようにテレビを中心としたメディアが発する情報を受け取り、楽しむ「メディアスポーツ」が世界中で普及している（神原 2001）。

メディアスポーツの中でもオリンピックやサッカーワールドカップ、スーパーボウルに代表されるスポーツ・メガイベントはテレビ向けに演出され、スポーツ・スペクタクルはグローバル・オーディエンスによる国家の歴史的、政治的、経済的ナラティブを消費する重要な方法を示している（Kennedy and Hills 2009：71）。実際、これらのスポーツ・メガイベントの視聴率は高く[1)]、テレビニュースでも多く報道されていることが明らかとなっている（中 2007；中・日吉・小林 2015）。そこで本研究は、2008年に開催された北京オリンピックと2012年に開催されたロンドンオリンピックの開会式前後の日本のキー局のテレビニュース番組を対象とした事例研究から２つの大会の報道傾向を内容分析によって明らかにし、日本のテレビニュースが提示する開催国のニュース・フレームについて分析する。

１）ビデオリサーチによる視聴率調査開始（1962年12月３日）からの「全局高世帯視聴率番組50【関東地区】」の内、スポーツで20番組を占める（2016年5月13日取得；http://www.videor.co.jp/data/ratedata/all50.htm）。

1．2　オリンピックとニュース・フレーム

メディア研究における「フレーム（フレーミング）」の定義は多岐にわたる。メディア報道における代表的なものには、出来事から切り離された断片が、その出来事の定義や解釈に用いられ、出来事全体を組織することをフレームとするもの（Goffman 1974）や、テクストにおいて強調され・顕著であるものをフレームとするものもある（Entman 1993：52）。また、出来事に対する取捨選択、強調に関するパターン、または認識、提示、解釈に関する恒久的パターンであって、シンボルを操作する者はパターンにより言語的、視覚的に言説を定式的に編成する（Gitlin 1980：７）、という定義も用いられる。このように、断片や強調、シンボルや言説のパターンを分析するフレーム研究をScheueleはフレームの種類とその使用法の２つの次元で分類している。Scheueleの分類が非常に有益な点は、フレームの種類をメディア・フレームとオーディエンス・フレームとに整理したことにある（Scheuele 1993）。これにより、フレーム形成におけるメディアの送り手の存在が意識されることになる。また竹下はメディア・フレームとオーディエンス・フレームの関係について「フレーミング研究とは、メディアがある争点や出来事をどのようにフレーミングするのか、そしてそれが受け手の現実認識とどう関連しているかを追求するものである」（竹下 1998：208）と述べている。

メディア・フレームにおいて、メディアがどのようにフレームを形成するのかについて、Lillekerは「メディアは、既に定義された狭いコンテクストの中でニュースを報道することによって、フレームを作り出す装置となりえる」（Lilleker 2006：82）としている。また、ニュースのフレーム抽出（何によってフレーミングがなされるか）、ということに関し、Gamson and Laschは次の５つをフレーミング装置としている。すなわちメタファー、エグゼンプラー（街の人の声）、キャッチ・フレーズ、描写、視覚イメージである。また、メディア・フレーム研究においてこれまで使用されているフレームに定型はない。フレーム設定は研究目的と研究対象によってそれぞれ異なるが、メディア・フレーム研究の中で、ニュース全体にあてはまる一般的なフレームのことを「ニュース・フレーム」（Nelson and Willey 2001）という。ニュース・フレームの内容分析には、新聞のテクストをテクストマイニングの手法を用いてフレームの図式化を図った研究（莫 2007）、新聞のスポーツ報道を事例に、量的・質的メッセージ分析したもの（茨木 1993）、またテレビの娯楽番組を対象としたメディア・フレーム分析（海後・宮川・飯高 2007）がある。

本研究では、日本のテレビニュースを対象とし、オリンピック開会式前後のテクストや映像について量的内容分析を行い、ニュースのテクストにおいて強調されたものや言説のパターン、映像における頻出イメージからキーワードを導き出しフレーム抽出を行う。次章では北京オリンピックとロンドンオリンピック開会式概要と開催国のイメージについて述べる。

2．オリンピック開会式と開催国のイメージ

2. 1　北京オリンピック開会式の概要とその背景

第29回夏季北京オリンピックは2008年８月６日（水）から８月24日（日）までの19日間、中華人民共和国の首都北京で開催された。中国でのオリンピック開催は夏季・冬季通じ初めてのことであった。中国政府はオリンピック開催を悲願とし、「オリンピックを迎え、文明的社会を創ろう[2)]」というスローガンを掲げ（中 2008：３）、中国北京オリンピックを中国国内向けには国威発揚、世界に向けては中国が先進国の仲間入りをする重要な場と捉えていた。

しかし中国政府の思惑とはうらはらに、北京オリンピック開催前の中国関連の報道は政治・災害分野で世界的に大きな注目が集まった。政治分野の報道が注目された背景には、世界各地でチベット人権問題に端を発するオリンピック開催反対運動や、2008年３月に起きたチベット暴動への中国政府の武力弾圧に起因する聖火リレーへの妨害活動が頻発したことがあげられる。続く2008年５月、四川省において大地震が発生し甚大な被害が発生した。世界のメディアはチベット暴動、北京オリンピック開催反対運動や聖火リレー妨害、地震の救出活動について報道しようとしたが、中国政府はこれらに対し情報統制を行い、世界の批判を浴びた。

さらに日本においては2007年12月下旬から2008年１月にかけて発生した「中国製冷凍餃子中毒事件」における中国政府の非協力的な対応により、世界と同様に世論の一部は批判的であった。また領土問題における日中の対立、歴史認識の相違による度重なる中国からの批判、中国における反日運動などによる対中国態度の形成にはメディアが大きな役割を果たしているといえよう。

このように開催前から世界の注目を集めていた北京オリンピック開会式は、８月８日（金）に行われた。中国人映画監督チャン・イーモウ氏がチーフディレクターを務め、中国の歴史・文化・発明をテーマとした豪華絢爛な内容であった。日本のテレビニュースでは孔子の弟子たちによる論語の唱和や活版印刷の活字「和」を表現した大人数による一糸乱れぬ力強い演技、古代中国の艶やかな衣装を身につけた女性たちが踊る映像が取り上げられた。これらは「壮大、パワフル、鮮やかな色彩などと形容され中国の歴史絵巻として賞賛された」（小林 2009：65）。NHK総合による開会式生中継の視聴率は37.3％（以下はすべて関東地区世帯視聴率データ）を記録し、歴代４位の高視聴率であった[3)]。

しかしながら北京オリンピック開催期間中、日本のニュース番組はそれまで盛んに報道して

２）北京オリンピック組織委員会による正式な大会スローガンは「One　World　One　Dream」である。
３）夏季オリンピック開会式視聴率データについては以下を参照のこと。ビデオリサーチ、2015、『夏季オリンピック開会式』（2015年3月27日取得、https://www.videor.co.jp/data/ratedata/program/oly_sum/sumolyop.htm）。

きた中国に対するネガティブなニュースを「周縁的な小さな」情報へと位置づけた（中 2009：56）。

2. 2　ロンドンオリンピック開会式の概要とその背景

第30回夏季ロンドンオリンピックは、2012年７月27日（金）から８月12日（日）までの17日間、イギリスの首都ロンドンで開催された。ロンドンは1908年、1948年に続き、史上初の３度目の開催であり、ロンドン中心部に競技場を集中させ、「市東部の再開発を絡めたメーン会場構想の質の高さや、優れた後利用計画などが評価され」（『読売新聞』2005. 7. 7朝刊）た先進国の都市型オリンピックであった。またロンドンオリンピックは元陸上金メダリストであるセバスチャン・コーが招致委員会委員長、同オリンピック・パラリンピック組織委員会委員長を務めたことに象徴されるように、「選手主導の五輪」（『読売新聞』2005. 7. 7朝刊）であることを強調し、「Inspire a Generation」というスローガンのもと「次の世代のための五輪」（『朝日新聞』2005. 7. 7朝刊）を目指した。

ロンドンオリンピックは先進国の大都市で行われるオリンピックであるがゆえに安全面に優れていることも評価されていたが、実はイギリスも様々な問題を抱えていた。2005年７月７日に「ロンドン同時多発テロ事件」、そして2011年８月には警官による黒人男性射殺事件に端を発する「ロンドン暴動」が発生している。その背景には財政赤字削減のための緊縮財政への反発、ギリシャ債務危機からのEU経済危機、深刻な社会格差や移民問題が存在していた。以上のように、先進国特有の問題が山積する中でロンドンオリンピックは開催された（日吉2015：15－16）。

2001年に発生した9. 11同時多発テロ以降、国際過激派組織によるテロは、世界の首脳が一堂に会する国際サミットやオリンピックなどの大規模イベントにおいて危惧され、厳重な警戒態勢の中開催されている。ロンドンオリンピックもテロに対する厳重な警戒の中、「The Isles of Wonder（驚きの島々）」をテーマに７月28日（土）に開会式が行われた。開会式総合監督は英国人映画監督ダニー・ボイル氏が務め、英国の「伝統と田園風景」（「ニュース７」７月27日）が描かれるのと同時に、サプライズ演出として多くの有名人が登場し話題となった。例えばサッカーのデビッド・ベッカム選手は聖火リレーの走者として登場し、ビートルズのポール・マッカートニー氏は代表曲「ヘイ・ジュード」を歌い、映画007シリーズのジェームズ・ボンド役のダニエル・クレイグ氏がエリザベス女王をエスコートして開会式会場上空からパラシュートで登場する映像が放映された。このように、英国が世界に誇る文学、演劇、映画、歌にまつわる演出が行われた。NHK総合による開会式生中継の視聴率は24. 9％を記録した。

2. 3　日本人の中国・イギリスイメージ

北京オリンピックとロンドンオリンピック、それぞれの開催国である中国と英国は、日本・

日本人にとって立ち位置が異なる国である。例えば中国は日本の隣国であり、古代より政治・経済・文化において関係が深い国である。日本人の中国・中国人イメージとして上げられるのは「歴史と伝統の国」（原・塩田 2000）、「食の国」（渡辺・伊藤 2000）という点である。また現在の中国は日本にとって経済的に重要な地位を占める国である。しかしながら近年、中国に対する日本人のイメージは非常にネガティブなものとなっている。北京オリンピック終了後の2008年11月及び2009年１月に実施されたBBCによる世界主要国に関する意識調査によると、中国に対し「おおむねポジティブ」なイメージを持つ日本人は８％であり、「おおむねネガティブ」なイメージを持つ日本人は59％に上った（BBC Global Poll 2009: 7）。またロンドンオリンピック終了後に実施された同調査結果では中国に「おおむねポジティブ」なイメージを持つ日本人は５％まで低下し、「おおむねネガティブ」な中国イメージを持つ人は64％に増加した（BBC Global Poll 2013： 7）。中国に対し「おおむねポジティブ」なイメージを持つ人の世界平均は約40％であることを考慮すると、非常に低い結果となっている。

中国・中国人イメージに関する調査結果によると、日本人は「人としての中国人」ではなく「国としての中国」として捉えることを好む傾向にあり（原・塩田 2000）、中国に対してステレオタイプ化されたイメージを持っていることが指摘されている（飽戸・原 2000）。さらに金山によると、「経済成長を謳歌するものと取り残されていくものの二項対立的な内容が定番化している」とし、日本の中国関連ニュースにおける報道内容のステレオタイプ化が明らかとなっている（金山 2007）。

一方、英国はヨーロッパの先進国を代表する国の１つであり、明治維新後の日本は「大英帝国」の政治・経済・文化を模倣した。現在でも「日本人の好きな国・地域」において７位（山田・酒井・諸藤 2007：16－17）と高い好感度を維持し、ビートルズやヴィヴィアン・ウエストウッドをはじめとするロックやファッション、演劇、映画、サッカー等ポピュラー・カルチャーを牽引する国である。また、BBCによる世界主要国に関する意識調査では、日本人の英国に対するイメージは、2008年から2013年にかけて「おおむねポジティブ」なイメージを持つ人が40％（BBC Global Poll 2009：15）から44％（BBC Global Poll 2013：11－12）に上昇した。英国に「おおむねネガティブ」なイメージを持つ日本人は３％～４％で推移していることから、ロンドンオリンピック開催後の英国イメージは良くなったといえよう。

ロンドンオリンピック開催期間における英国報道のメディア・フレームについて日本の新聞記事を分析した日吉によると、オリンピックに関する報道が中国と比較して高い割合で報じられた原因は、短期間で集中して報じられるオリンピック競技結果に関連して開催国・英国に絡む報道を行うことが困難であったためと指摘している。その理由として英国報道が日本人にとって単純化することが困難かつ日本と直接関係のない複雑なグローバル問題を取り上げることが多く、英国における中東問題や移民問題について短期間・短時間での報道による理解が得

られないとしている（日吉 2015：11－16）。上記から、現在の日本人の英国に対するイメージは中国より高いが、日本における英国報道量は中国報道量より少なく、関心も高いとは言えない。これらの要因の１つとして普段からの直接的利害関係や接触、距離が推測される。しかし、日本と２ヶ国との政治、歴史、経済、文化、現在の社会問題等の違いが報道内容に反映されているとは言いがたい。ここから複雑な内容を扱う国際報道におけるわかりやすさ･単純化･ステレオタイプ化による問題が示唆される。また、それらについてのフレームがメディアによって作り出されていると思われる。

次章では、テクスト分析や映像分析からキャッチフレーズやシンボルを演繹的に探り、開催国のニュース・フレームについて検討する。

３．研究方法

3．1　分析の対象となった番組と略称

本研究の目的を達成するために、国際テレビニュース研究会が保有する北京オリンピックとロンドンオリンピック開催期間における日本のテレビニュースのコーディング・データを利用した[4)]。調査対象はNHKの「NHKニュース７」（略称「ニュース７」放送日：月曜～日曜19：00～19：30）、日本テレビの「NEWS ZERO」（略称「ZERO」放送日：月曜～木曜22：54～23：58、金曜23：58～24：58）、TBSの「NEWS23X」（略称「23X」放送日：月曜～木曜22：54～23：45、金曜23：30～24：15）、フジテレビの「NEWS Japan＋すぽると！」（略称「Japan」放送日：「NEWS Japan」月曜～木曜23：30～23：55、金曜23：58～24：23「すぽると！」月曜～木曜23：55～24：35、金曜24：23～25：05）、そしてテレビ朝日の「報道ステーション」（略称「報ステ」月曜～金曜21：54～23：10）の５番組である。以後本研究において、各番組を略称で記述する。ただし、TBSの「NEWS23X」は、北京オリンピック時を「23」、ロンドンオリンピック時を「23X」とする[5)]。

調査対象期間は、２大会の開会式前日と開会式後の最初の放送日の各々２日ずつである。調査対象期間とそのニュース報道量は図表３－１の通りである[6)]。

４）国際テレビニュース研究会は、2008年北京オリンピック開催期間中（2008年８月４日～８月29日）および2012年ロンドンオリンピック開催期間中（2012年７月24日～８月16日）のテレビニュース番組のデータを保有している。筆者は国際テレビニュース研究会に2004年より参加しており、北京・ロンドンオリンピック調査に従事しているため今回それらのデータを利用した。

５）番組開始から2008年３月28日まで『筑紫哲也NEWS23』であったが、番組改編に伴い北京オリンピック時には『NEWS23』（2008年３月31日．2010年３月26日）、ロンドンオリンピック時には『NEWS23X』（2010年３月29日．2013年３月29日）と番組名が変更された。北京オリンピック時のキャスターは後藤謙次氏、膳場貴子氏、三澤肇氏である。ロンドンオリンピック時は膳場貴子氏がメインキャスターを務め、サブキャスターは出水麻衣氏・蓮見孝之氏である。2015年３月時点の番組名は『NEWS23』、アンカーは岸井成格氏、メインキャスター膳場貴子氏である。

６）先行研究（小林 2009）では、北京オリンピック開会式が日本時間８月８日（金）午後９時開始で、日本との時差が１時間であるため、開会式当日の報道を分析することができた。しかしロンドンオリンピック開会式は、日本時間７月28日（土）午前５時開始（現地時間７月27日午後９時）のため、調査対象番組の内「ニュース７」だけが放送を行っていた。そこで本研究では北京オリンピック報道との比較を行うため、調査期間を開会式前日と開会式後最初の放送日とした。

図表３－１：調査対象期間とニュース報道量

		北京		ロンドン	
開会式前	調査日	2008年8月7日		2012年7月27日※	
	ニュース報道量	12, 295秒	86本	12, 245秒	78本
開会式後	調査日	2008年8月11日		2012年7月30日	
	ニュース報道量	14, 579秒	83本	9, 414秒	77本
合計	調査日	4日			
	ニュース報道量	48, 533秒		324本	

※７月27日はロンドンオリンピック開会式当日であるが、時差のため日本では開会式前の報道となる。

3. 2　分析方法

本研究は、上述した北京オリンピックとロンドンオリンピックのコーディング・データのうち、開会式前後のニュースについて先行研究の分類（小林2009）と同様に５つの項目を設け、再分析を行った。図表３－２は、それらをまとめたものである。５つの項目は、オリンピックの「１開会式」「２　競技」「３　テロ・抗議」に関するニュース。そして１～３の分野を除く「４　開催国関連」ニュース、そしてオリンピックや開催国に関係のない「５　その他」のニュースである。前述の１～４の小項目をまとめて「オリンピック・開催国関連」ニュースとする。

図表３－２：ニュース分野

大項目	小項目	関係分野
オリンピック	１　開会式	開会式関連ニュース
	２　競技	競技結果や選手紹介のニュース
開催国関連	３　テロ・抗議	テロ・抗議関連のニュース
	４　開催国関連	その他オリンピック開催国についてのニュース
その他	５　その他	１～４以外のニュース

さらに本調査では開会式前後のニュースにおいて、「オリンピック・開催国」ニュースに現れていた「場所」と「人」について図表３－３、３－４の独自項目を設け分類した。

抽出方法は、１）「オリンピック・開催国関連」ニュースの中から、「２　競技」結果を除く部分を分析対象とした。そして２）それらのニュース･テクストと映像内容に登場する「場所」と「人」について分類を行った[7)]。

また、事例毎に映像を詳細に視聴した上でテクスト分析を行った。

７）１つのニュースの中で同じ場所、人が複数言及されても（映像に現れても）「１」とカウントした。

図表３－３：場所

コード	
1　オリンピック会場	各種競技場、開会式会場、選手村、プレスセンターも含む
2　街	街並み等の開催地の風景を撮影したもの、道路も含む
3　商業施設	商店、ショッピングセンター、企業のビル等
4　行政施設	国会、省庁施設、市役所、警察署等
5　住宅地	家、マンション
6　駅・空港等	各種輸送機関の駅、ターミナル
7　歴史的建造物	有名な建物、宮殿等を含む
8　自然	海、山、川、森林等
9　その他	

図表３－４：人

コード	
1　選手等	オリンピックに参加する選手、監督、コーチ等
2　市民	開催国の市民
3　ボランティア	オリンピック運営に携わるボランティア・スタッフ
4　観光客	海外からの観光客
5　大会関係者	国際オリンピック委員会関係者、大会関係者
6　開催国政治家	開催国の政治家等
7　外国要人	開催国以外の政治家、有名企業幹部等
8　有名人	芸能人、王族等
9　警察・軍人	空港・駅等、オリンピック競技場を警備する警察・軍人
10　キャスター	キャスター、アナウンサー、レポーター（記者）
11　その他	

コーディングを担当したコーダーは、メディアを専攻する大学生である。コーディング前に十分に訓練を積み、コーディングを行った。コーダーが判断に迷った場合はコーディング・シートに記入し、その都度筆者が指導した。またコーディング終了後、すべてのデータを筆者が確認しコーディングにおける考え方や分析視点を統一し、データの信頼性向上に努めた。

４.「オリンピック・開催国関連」ニュースの分析

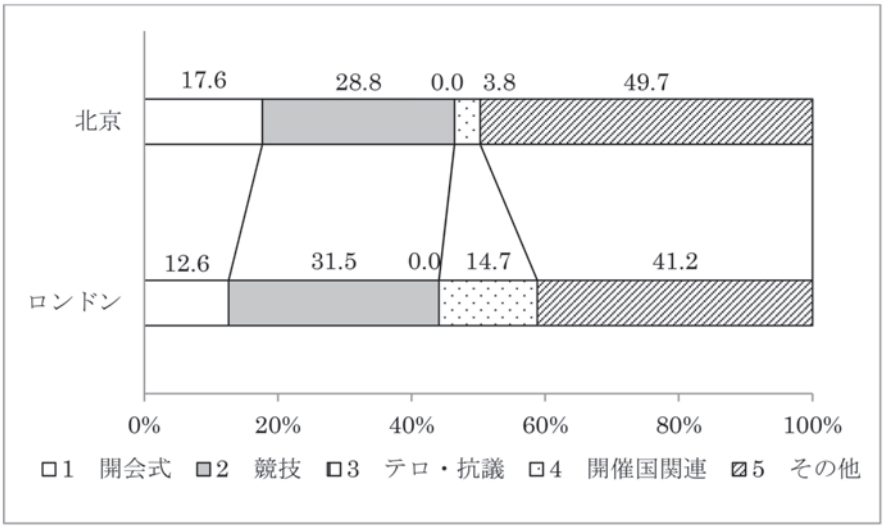
本章では、北京オリンピックとロンドンオリンピックのコーディング・データを元に、開会式前後のニュースについて、先行研究の分類（小林 2009）をもとにに５つの項目を設け、再分類を行った。また開会式前後のトップニュースのタイトル・テロップの分析を行い、開会式前後の「オリンピック・開催国関連」ニュースに現れた「場所」「人」について映像面から分析を行った。

4. 1　開会式前後のニュース分野

図表４－１は、北京オリンピックと開会式前日の５局のニュース分野を合計し、大会毎に示したグラフである。開会式前には「１　開会式」「２　競技」「３　テロ・抗議」「４　開催国関連」ニュースの合計である「オリンピック・開催国関連」ニュースが、２大会とも全体の約５割を占めていた（北京50.2%、ロンドン58.8%）。これらからオリンピックへの関心の高さが伺える。

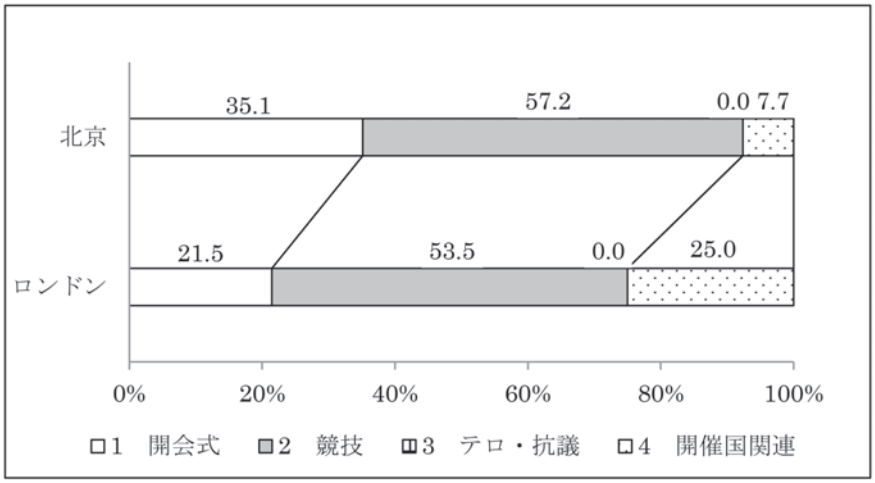
そこから「５　その他」ニュースを除いたものが図表４－２である。その内訳は、オリンピックに参加する日本の選手の様子や試合結果を報じる「２競技」ニュース（北京57.2%、ロンドン53.5%）をはじめ、開会式リハーサル映像や聖火リレーの様子を扱った「１　開会式」ニュース（北京35.1%、ロンドン21.5%）や、開催国の社会問題や文化について取り上げた「４　開催国関連」ニュース（北京7.7%、ロンドン25.0%）で構成されていた。「３　テロ･抗議」ニュースは両大会ともに１本のニュースとしては扱われていなかった。「２　競技」ニュースへの注目度は同程度であるが、「１　開会式」や「４　開催国関連」ニュースには違いが見られた。

図表４－１：開会式前日のニュース分野



単位：ニュース時間（%）

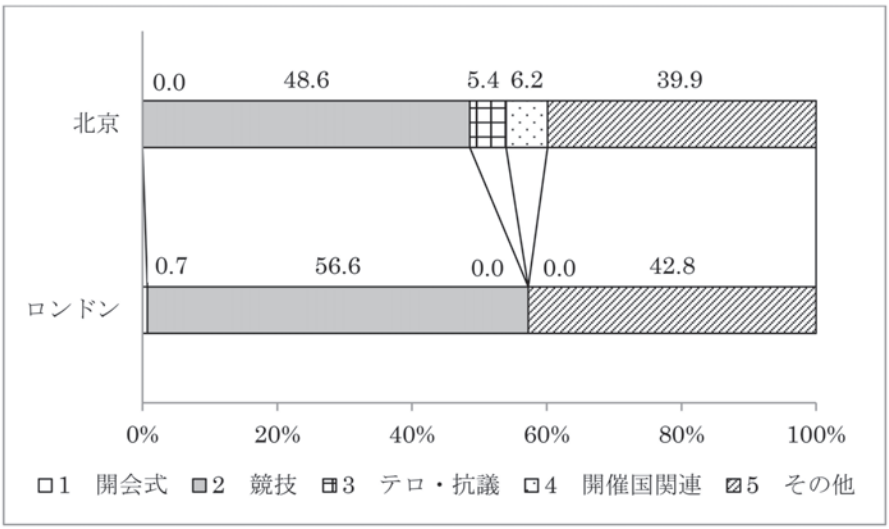
図表４－２：開会式前日の「オリンピック・開催国関連」ニュース



単位：ニュース時間（%）

図表４－３は、オリンピック開会式後の５局のニュース分野を大会毎に示したグラフである。開会式後には「オリンピック・開催国関連」ニュースの合計は全体の約６割と微増した（北京60.1%、ロンドン57.2%）。

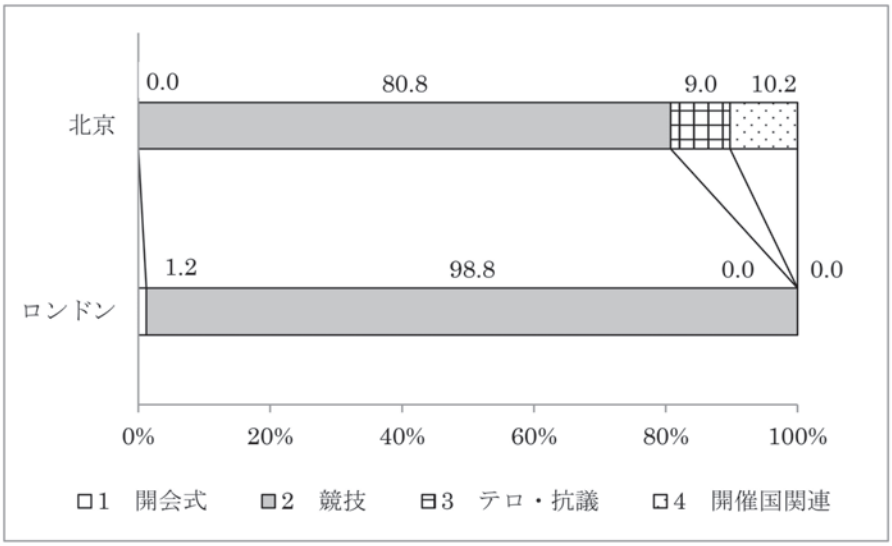
図表４－３：開会式後のニュース分野



単位：ニュース時間（%）

しかしながらその内訳は開会式前と大きく異なる。図表４－４は図表４－３から「５　その他」ニュースを除いたものである。図表４－４によると、両大会とも「２　競技」ニュースだけで「オリンピック・開催国関連」ニュースの８割以上を占めた（北京80.8％、ロンドン98.8％）。後述するがロンドンオリンピックの分析対象日（７月30日）は、競技結果をトップニュースとして扱った番組はなかった。それにも関わらずロンドンオリンピック開会式後の「オリンピック・開催国関連」ニュースは、「２　競技」ニュースだけで100％に近い結果となった。

図表４－４：開会式後の「オリンピック・開催国関連」ニュース



単位：ニュース時間（％）

一方、北京オリンピックでは開会式後も北京オリンピックに対する「３テロ・抗議」（9.0％）、中国の社会問題等についての「４　開催国関連」（10.2％）ニュースが引き続き報道されていた。「３　テロ・抗議」ニュースが報じられたのは、８月10日未明に「新疆ウイグル自治区連続爆破事件」が起こったためである。

図表４－５：北京オリンピック開会式後の「テロ・抗議」ニュースのタイトルテロップ

番組	タイトルテロップ	秒
ZERO	新疆ウイグル自治区の襲撃事件爆発現場にカメラ潜入	230
23	“平和の祭典”の陰で…	167
報ステ	五輪開催中なのに…12人死亡ウイグル自治区の襲撃現場	364

図表４－６：北京オリンピック開会式後の「開催国関連」ニュースのタイトルテロップ

番組	タイトルテロップ	秒
Japan	滝川緊急取材 急成長北京に見た“光と影”	35
23	「政治的背景なし」北京・観光客殺害	349
報ステ	北京各地で市民熱狂も…"出稼ぎ労働者"が見た五輪	514

図表４－５は、開会式後の８月11日の「３　テロ・抗議」ニュースのタイトルテロップを示したものである。「ZERO」では「新彊ウイグル自治区の襲撃事件爆発現場にカメラ潜入」と題し、オリンピックとの関係や影響の有無、報道規制について取り上げていた。図表４－６は８月11日の「４　開催国関連」ニュースのタイトルテロップを示したものである。「Japan」と「報ステ」は北京の貧困問題やオリンピック開発のために消えた胡同や労働者のスラム街について取り上げていた。「23」は北京市内でアメリカ人観光客の男女２名が殺傷された事件について取り上げ、北京オリンピック組織委員会会長の王偉副氏が政治的関係はないとした発言を報じていた。

このように、北京オリンピックでは開会式後に「３　テロ･抗議」「４　開催国関連」ニュースが取り上げられていたが、ロンドンオリンピックではそれらが開会式後に全く取り上げていないことが明らかとなった。以上から、北京およびロンドンオリンピックにおける「２　競技」ニュースの報道量の差異の要因として、開催国への関心度の違いや事件発生の有無が推測される。

4. 2　トップニュース

本項では、開会式前後の各番組のトップニュースについて分析を行う。図表４－７は、開会式前日のトップニュースを示したものである。北京オリンピックでは５番組中４番組が「オリンピック・開催国関連」ニュースを取り上げていた。特に４番組中３番組（「23」「Japan」「報ステ」）は北京オリンピック「１　開会式」についてのニュースであった。「ニュース７」は2008年当時日本と中国で問題となった「中国製冷凍餃子中毒事件」について日本政府要人の発言についてのニュースであった。

一方、ロンドンオリンピックでは５番組すべてが「オリンピック・開催国関連」ニュースを取り上げていた。そのうち３番組（「ZERO」「23」「Japan」）がロンドンオリンピック「１　開会式」についてのニュースであった。残り２番組（「ニュース７」「報ステ」）は日本の「２　競技」結果についてのニュースであった。以上から、開会式前のトップニュースに大会毎の違いはほとんど見受けられなかった。

図表４－７：オリンピック開会式前日のトップニュース

番組	タイトルテロップ	
	北京	ロンドン
ニュース7	“公表せず”は中国側への配慮	サッカー男子優勝候補スペインから金星
ZERO	事故相次ぐ	さあ開幕ロンドン五輪17日間の熱戦始まる
23	北京 開幕前夜 オリンピック一色	いよいよロンドン五輪開幕開会式直前！ロンドン最新情報
Japan	いよいよあす開幕！もりあがる北京は今…	開会式まであと５時間最終リハ順調ロンドン生中継
報ステ	歓声、緊張、混乱続く北京五輪開会式まで22時間	日本大金星世界に衝撃

では、開会式後のトップニュースはどうだったのか。開会式後の最初の放送日のトップニュースを示したものが図表４－８である。北京オリンピックでは５番組すべてが日本の北島康介選手が金メダルを獲得した「２　競技」結果のニュースであった。ロンドンオリンピックは５番組中３番組（「ZERO」「23」「報ステ」）が日本の「２　競技」結果のニュースで、残り２番組（「ニュース７」「Japan」）は日本国内の事件・事故を扱った「５　その他」のニュースであった。

開会式前のニュースの傾向としては、選手の様子、予選の結果等を取り上げた「２　競技」ニュースを中心に、「１　開会式」についての話題や「４　開催国関連」ニュースが取り上げられた。開会式後のニュースの傾向は、「オリンピック・開催国関連」ニュースの８割以上を「２　競技」ニュースが占めることが明らかとなった。しかし、その内訳は大きく異なっていた。図表４－４で示した通り、ロンドンオリンピックでは「２　競技」ニュースが「オリンピック・開催国関連」ニュースの98.8％を占めていた。北京オリンピック報道では北島選手が金メダルを獲得し、全番組のトップニュースを独占したが、全体としては80.8％とロンドンオリンピックの「２　競技」ニュースの構成比に及ばなかった。

図表４－８：オリンピック開会式後のトップニュース

番組	タイトルテロップ	
	北京	ロンドン
ニュース７	金世界新で二連覇	愛知一宮木曽川 川遊びの中学生3人死亡
ZERO	北島康介世界新で金 これが“58秒91”のすべて	【タイトルテロップなし】 競技ニュース結果
23	北島 涙の金メダル 世界新で100m制す	【タイトルテロップなし】 競技ニュース結果
Japan	早くも“あの賞”の声 北島世界新で連続「金」	流血の男「自分で刺した」 速報 ストーカー？母娘刺され死亡
報ステ	連覇の鍵は"ストローク数"北島康介「涙」の金世界新	【タイトルテロップなし】 競技ニュース結果

上記から、開会式前後でニュース分野の比率、トップニュースが異なることが明らかとなった。これらの結果から、開会式前後で報じられる「１　開会式」「３　テロ・抗議」「４　開催国関連」ニュースにおいて大会毎に異なるニュース･フレームが存在することが推測される。それは報道されるニュース分野の比率が大会毎に異なることによると思われる。

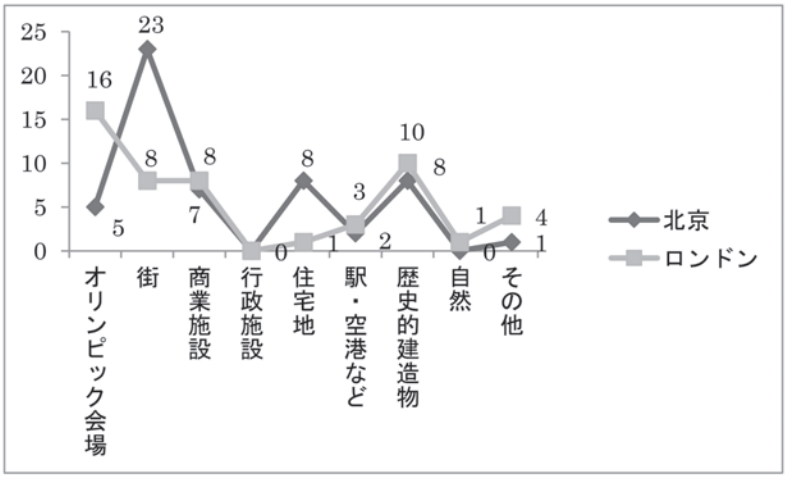
次項では、ニュース・テクストと映像に現れる「場所」と「人」を抽出し、分析を行う。

4. 3　開会式前後の「オリンピック・開催国関連」ニュースに現れた「場所」・「人」

本項では開会式前後のニュースにおいて、「オリンピック・開催国」ニュースに現れていた「場所」と「人」についてそれぞれ図表３－３、３－４の項目に従い分類した結果を示す。図表４－９は「オリンピック・開催国関連」のニュース・テクストおよび映像に現れた「場所」についての分析結果を示したものである。北京オリンピック時のニュースでは、オリンピックで沸く「街」や、テロ等に対する厳戒態勢の「街」の様子（23回）（図表４－17)、そして胡同・出稼ぎ労働者が住むスラム（「住宅地」）（８回）（図表５－15)、聖火リレーの舞台となった万里の長城（「歴史的建造物」）（８回）（図表４－10）が提示されていた[8)]。

ロンドンオリンピック時のニュースでは、「オリンピック会場」前（16回）からの中継を中心に、聖火リレーの舞台となったタワーブリッジ、オリンピックを祝う鐘の音を鳴らしたビッグ・ベンを中心とした「歴史的建造物」（10回）（図表４－11）が提示されていた。また、ロンドン東部の再開発の象徴であるショッピングセンター（「商業施設」）（８回）が提示されていた。

図表４－９：「オリンピック・開催国関連」ニュースに現れた場所



単位：回

８）本研究では、著作権法第32条に基づきテレビニュース映像を引用している。

図表４－10：「報ステ」北京８月７日

図表４－11「ニュース７」ロンドン７月27日

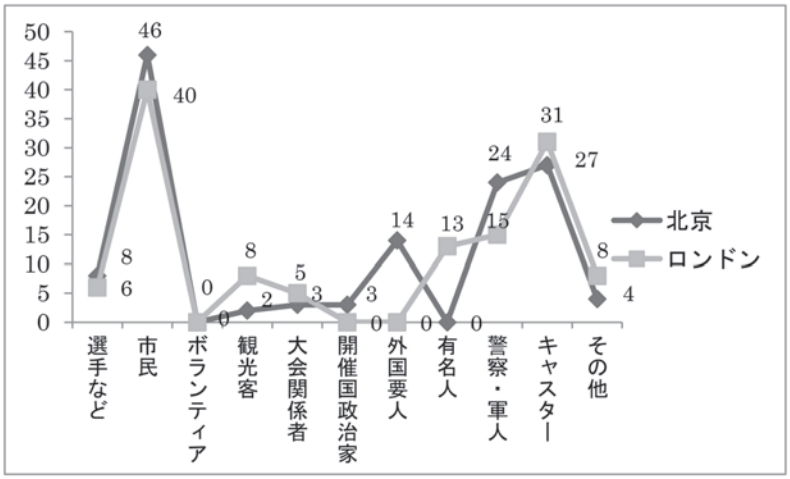
図表４－12：「23」北京８月７日

図表４－13：「23Ｘ」ロンドン７月27日

図表４－14は、「オリンピック・開催国関連」のニュース・テクストと映像に現れた「人」の分類結果を示したものである。北京オリンピック時のニュースではオリンピック開会を目前に「市民」（46回）が興奮・高揚する様子（図表４－12）、中国の「政治家」、開会式に出席する各国の首脳（「外国要人」）（14回）（図表４－15）、そして空港・駅、会場を守る「警察・軍人」（24回）（図表４－17）が現れていた。なお、北京オリンピック時のニュースでは、「市民」の中には貧しい出稼ぎ労働者（農民工）やスラムの住民が含まれている（図表５－14）。

ロンドンオリンピック時のニュースでは、北京と同様に「市民」（40回）がオリンピックを楽しみにしている様子（図表５－４）、開会式のサプライズ演出に登場すると予想された英国のエリザベス女王やサッカーのデビッド・ベッカム選手、歌手や俳優、バッキンガム宮殿での聖火リレーに登場する英国王室の王族等の「有名人」（13回）（図表４－16）、駅や会場とその周辺を警備する「警察・軍人」（15回）（図表４－18）が現れていた。

図表４－14：「オリンピック・開催国関連」ニュースに現れた人



単位：回

図表４－15：「Japan」北京８月７日

図表４－16：「ZERO」ロンドン７月27日

図表４－17：「報ステ」北京８月７日

図表４－18：「Japan」ロンドン７月27日

上記から、２大会のニュースに共通して登場する「場所」･「人」の特徴的キーワードは、【聖火リレー】等の舞台となる「歴史的建造物」、オリンピックに【興奮･高揚】する「市民」、【厳戒態勢】の「警察・軍人」であることが明らかとなった。大会毎の違いとしては、北京オリンピックでは北京オリンピック開会式に参加する「開催国政治家」「外国要人」、特に【各国首脳】が多く取り上げられ、「街」や「住宅地」が取り上げられた。ロンドンオリンピックでは、「オリンピック会場」と「歴史的建造物」が多く取り上げられた。またロンドン東部の【再開発】のために建設された欧州最大の「商業施設」と「観光客」、開会式に出演する【有名人】が取り上げられていた。

これらが意味することは、北京オリンピックが【国家】主導による国威発揚のために開催されたオリンピックである、ということである。対してロンドンオリンピックは、国際【都市】ロンドンの経済的・文化的側面が強調された。

次章では、ニュース・テクストを質的に分析し、ニュースに提示される「場所」･「人」がどのような文脈で語られていたか明らかにする。

５．ニュースのテクスト分析

本章では北京･ロンドンオリンピック開会式前後の開催国に関する発言について、次の４点、①街の様子、②開会式関連、③警戒、テロ・抗議、④開催国関連に焦点を絞り、質的に分析した結果を示す。

5．1　街の様子

オリンピック開会式前日の報道では、オリンピック開催に沸く街の様子と市民の【興奮・高揚】を伝えるインタビューが両大会とも取り上げられていた。例えば北京オリンピック報道では、サッカー予選の試合の模様を街頭テレビで応援する女性の「オリンピックが明日に迫りとても楽しみです」（図表５－１）という声や、ロンドンオリンピック報道ではロンドン市内のパブで友人らと食事をしている女性の「興奮しているわ。きっといい天気になるわ」（図表５－２）と、オリンピック開会を楽しみにする発言が取り上げられていた。また、北京オリンピック聖火ランナーの「オリンピックは100年来の望み、中国の夢です。必ず成功します」（図表５－３）や、ロンドンでは、オリンピック開会までのカウントダウン時計のあるトラファルガー広場で「地元での開催を誇りに思う　みんなで楽しい時間を過ごしたい」（図表５－４）というオリンピック開催を誇る内容が取り上げられていた。

図表５－１：北京オリンピック開会式についての市民のコメント抜粋

番組	市民	コメント
23	聖火ランナー女性	オリンピックは100年来の望み、中国の夢です。必ず成功します。
	男性	中国ガンバレ！
Japan	女性	オリンピックが明日に迫りとても楽しみです。
	男性	明日の開会式はテレビではじめから見るよ。
報ステ	聖火ランナー男性	聖火ランナーになって万里の長城を走るのは二重の栄誉だ。

図表５－２：ロンドンオリンピック開会式についての市民のコメント抜粋

番組	市民	コメント
ニュース７	白人女性	興奮しているわ。きっといい天気になるわ。
	白人男性	地元での開催を誇りに思う みんなで楽しい時間を過ごしたい。
	白人女性	一生に一度のこと それに関われるのはすごいこと！
23X	黒人青年	（開会式に向け準備はいいか？）準備万端だよ。
	黒人男女３人組	（盛り上がってますか？）YA ！
報ステ	白人男性	生きているうちにもうこんなチャンスは二度とないからね。国にとってもいいことさ。

図表５－３：「23」北京８月７日

図表５－４：「ニュース７」ロンドン７月27日

その他に、北京オリンピックでは「ZERO」が開会式前日の８月７日が旧暦でバレンタインデーを祝う日であることから街中で仲良く手をつないでオリンピックイブを楽しんでいたことが取り上げられていた。「報ステ」では開会式の８月８日に出産を希望する妊婦で混雑する病院と家族の様子を取り上げ、市民にとっても８月８日が特別な日であることを強調していた。しかし、「ニュース７」はオリンピック関連のニュースがなかったためこのような報道はなかった。

ロンドンオリンピックでは、「ZERO」のメインキャスター村尾信尚氏が「ロンドンオリン

ピックはエコ」と題してロンドンの街を貸自転車で移動してオリンピック会場まで行き、環境に配慮したロンドンの様子を伝えた。また、月曜キャスターの櫻井翔氏はロンドンで行われたジャパンフェスティバルの様子を取材し、東日本大震災発生後初めての五輪で、復興を応援した世界中の人々に感謝の念を伝える被災者の姿を伝えた。「23X」はロンドンから出水麻衣氏がオリンピック開会式チケットの抽選倍率が10倍だったことに触れ、当選したラッキーな人はスタジアムで、当たらなかった人はロンドン市内の公園のパブリックビューイング会場の特大モニターで開会式を見ることができるため、ロンドンはオリンピック一色に染まると伝えていた。

5. 2　開会式関連

北京オリンピック報道の特徴は、前述した聖火ランナーの「オリンピックは100年来の望み、中国の夢です。必ず成功します」（図表５－３）や「中華民族100年の夢」（図表５－５）という言葉に象徴されるように、オリンピック開催が国家の悲願であり、オリンピックによって先進国の仲間入りをするという中国のねらいが報じられていた。開会式自体へのキャスター等のコメントはなかったが、後述するオリンピックや開会式関連ニュースでコメントが見られた。例えば厳しい取材規制や市民に対する【国家の規制・統制】（図表５－８）。出稼ぎ労働者（農民工）のオリンピック開催による失業問題（図表５－13、５－16）、スラムの【貧困】問題に対する批判的なコメントである（図表５－13、５－16）。

対してロンドンオリンピック報道は、開会式のサプライズ演出への予想がすべての番組で行われ、エリザベス女王（図表４－16）はじめ英国王室の人々やビートルズのポール・マッカートニー（図表５－６）等多くの【有名人】が取り上げられていたことが第１の特徴である。図表５－７は、ロンドンオリンピックについてのキャスターらのコメントを示したものである。「Japan」の矢作武寛記者が「これまでの大会に比べ今回のロンドンオリンピックは地元の関心、盛り上がりが今一つと言われてきました。しかしやはり本番を迎えましてここロンドンはお祭

図表５－５：「23」北京８月７日

図表５－６：「ZERO」７月27日

図表５－７：ロンドンオリンピックについてのキャスターらのコメント抜粋

番組	キャスター等	コメント
ニュース7	武田真一	史上最多、3回目のオリンピックが行われるこのロンドンの街、大いに盛り上がっています。
23X	出水麻衣	ロンドンは今夜オリンピック一色に染まります。
Japan	矢作武寛	これまでの大会に比べ今回のロンドンオリンピックは地元の関心、盛り上がりが今一つと言われてきました。しかしやはり本番を迎えましてここロンドンはお祭りが始まるような高揚感が非常に感じられます。
報ステ	湯浅誠	（オリンピック事業は）大規模公共投資ですから、それ建てて終わった後、何の遺産がレガシーが残るんだって言ってた人がいましたけど、なかなかそこは厳しいものがある。まそう考えると日本とかイギリスみたいな成熟した社会のいわゆる先進国の開発の有り方っていうのは、発展途上国なら道路もないし建物もないしというところで意味はあるのかもしれませんが、1.5兆円使われたということでしたけど、本来なら、ま難しいところですけど人の開発とか底上げとか教育費用の問題も出てましたけど そういうとこに使うとより今後の発展ということに結びついていくんじゃないかなと（以下省略）。
	古館伊知郎	目先のお金か次なるもっと先を見すえた繁栄かってとこでいつも目の前のところにやってることを繰り返してきている感じがイギリスであろうが日本であろうがって感じがしますねえ。

りが始まるような高揚感が非常に感じられます」（図表５－７）とあるように、史上最多３回目のオリンピックが行われるロンドンの街の興奮を伝えているのが第２の特徴である。さらに「ZERO」のメインキャスター村尾氏は、北京とロンドンの開会式前の様子の違いを以下のようにコメントしている。

＜村尾信尚＞

（北京オリンピックは）中国の国威発揚という感じがあって（中略）北京の街全体がですねオリンピック一色に包まれている感じがしたんですけれども、今回のロンドンオリンピック私昨日到着したんですけれど、イギリスのお国柄なのか意外と街全体は静かで落ち着いてる雰囲気。ただここにきてやはりじわりじわりと期待感が高まってきましたね。（2012年７月27日「ZERO」）

その中で「報ステ」は、「開会直前のロンドン五輪イギリスの戦略と現実」（サブタイトルテロップ）と題し、ロンドンオリンピックの経済性や再開発、再開発地域の移民問題と貧困について報道した。この報道に対し湯浅誠氏はイギリスのような先進国の場合、大規模公共投資よりも、教育にお金をかけた方が今後の発展に繋がるのではないか（図表５－７）と総括している。

以上の街の様子、市民、開会式についてのニュースのテクスト分析から、北京はオリンピックだけでなく中国という【国家】の、政治や人権、【貧困】問題に対して目が向けられていた

ことが明らかとなった。ロンドンは先進国の【都市】での開催が強調され、ロンドンの【再開発】や「移民」の【貧困】問題が取り上げられることはあったが、【国家】の問題に触れることはあまりなかった。

5. 3　警戒、テロ・抗議

開会式前日の報道では、2大会とも空港、駅、会場等の厳重な警戒態勢について報じていた。北京オリンピック時の警戒態勢についてのコメントを抜粋したものが図表5－8である。「警戒」、「テロ・抗議」について民放4番組（「ZERO」「23」「Japan」「報ステ」）が取り上げ、その内3番組でコメントがあった。北京オリンピックは大会直前に中国国内でテロが2件起き[9)]、2008年3月からの聖火リレーに対する抗議や妨害活動、オリンピック開会にあわせ人権団体による抗議デモが世界各地で起こっていた[10)]。さらに、北京オリンピック開会式には史上最高の80ヵ国の首脳が参加したため、各国要人が到着する空港やブッシュ大統領が宿泊する施設の警備態勢について報じていた。このため「Japan」の箕輪幸人解説委員は、北京オリンピックがテロの危険性が強く意識される大会であるとし、「23」「報ステ」ではテロを警戒した【厳戒態勢】による【国家の規制・統制】により市民やメディア関係者が息苦しさを感じるほどであることが述べられていた（図表5－8）。

図表5－8：北京オリンピック時の警戒態勢についてのコメント抜粋

番組	キャスター等	コメント
23	三澤肇	(8月10日に新疆ウイグルで起きた連続爆破テロの事件の導入コメント) 一歩外に出ると厳しい交通規制で軍や警察が大量導入されていて息苦しい場面もあったんですよね。特に北京市民は移動を制限されたりインターネットを自由に閲覧できなかったり。あるいはマナー面、上着脱ぐなと逐一と注意されるんですよね。中には早く終わってほしいともらす人も。硬い皮をはがすとそういった本音も垣間見れた。
Japan	箕輪幸人 解説委員	オリンピックは平和の祭典だと言われますけど、これまでテロと無縁だったわけではないわけですね。(中略)しかし今回ほどテロの危険性というのを強く意識させられる大会というのはなかったと思うんですね。ま、それだけ中国が抱えている問題が根深さっていうものも感じさせるんですけれども。中国政府は北京だけではなく全土で警備を強化しています。(中略)選手・観客そして民衆、こういった人たちが被害を受けることがないよう安全に大会が進行することこれを願いたいですね。
報ステ	加藤千洋	厳戒態勢はやむを得ないが息苦しさを感じる。

9）2008年7月21日に中国雲南省昆明で「連続バス爆破事件」が発生した。同年8月4日に新疆ウイグルの警察施設に手榴弾が投げ込まれ警察官16人が死亡したテロが起こっていた。

10）2008年3月中旬、チベット自治区ラサで、共産党・政府に対する僧侶や市民の抗議行動が激化し、商店や学校が破壊された。四川省や甘粛省にも拡大し、武力鎮圧で多数の死傷者が出た。3月下旬、チベット自治区で起きた中国政府のチベット対応を巡り、ギリシャでの北京五輪の聖火採火式が妨害される。以降、パリ、ソウル等各地での聖火リレーの妨害や抗議が相次いだ。中国は「聖火防衛隊」を派遣して聖火リレーの安全を取り計らった。

ロンドンも2005年に同時多発テロが発生し、2011年にはロンドン暴動があったため、３番組（「ZERO」「Japan」「報ステ」）で重装備の警察官や軍人による警備の様子、マンションの上に配備されたミサイルが取り上げられていた。この内「報ステ」は2005年の同時多発テロと2011年の暴動について取り上げたが、オリンピックのために配備された警察官らは映像だけが確認された。このため、図表５－９にあるように各番組のコメントは少ない。また「ニュース７」「23X」はロンドン大会の警戒態勢等については触れなかった。

図表５－９：ロンドンオリンピック時の警戒態勢についてのコメント抜粋

番組	市民	コメント
ZERO	近隣住民女性	(マンションの上に配備されたミサイルについて)何か起きるとは思わないわ。私たちは心配していない。
	近隣住民男性	安全のためなら同意するが、住宅の上に配備するのは変だと思う。
	ナレーション	2005年にテロを経験しているイギリス。国の威信をかけた警備でオリンピックを迎えようとしている。
Japan	矢作武寛	オリンピックパーク周辺のマンションに地対空ミサイルが配備される等、過去のテロの教訓を生かした徹底的な対策が行われています。

図表５－10：北京オリンピック時のテロ・抗議についてのコメント抜粋

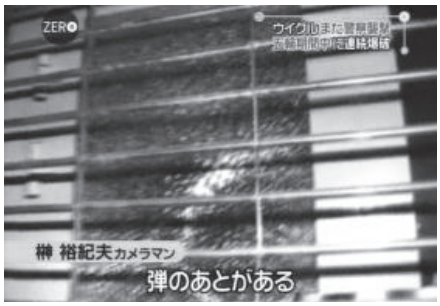
番組	キャスター等	コメント
ZERO	村尾信尚	現地を取材して記者と話したんですけども、中国当局の報道規制が相当厳しくなっている。取材規制が相当きつくなっているんですよね。現地のスタッフの携帯電話にまで中国当局からおい、どこへ行くんだという電話が入るらしいですよ。
	小林麻央	そういう統制がある一方で、オリンピックの開会式では少数民族の子供たちが中国の国旗を運ぶシーンがあったりして友好ムードを強調しているようないう雰囲気もありますよね。
	村尾信尚	開会式だけじゃなくて私も北京市内を見たときに、町中いたるところにOne World One Dream、ひとつの世界、ひとつの夢そう書かれた映像、あれがいたるところにあるんですよ。ああいうスローガンが、オリンピックだけのパフォーマンスに終わらせることなく、現実の政治においてOne Dream、ぜひ実現してほしいですね。(以下略)
23	ナレーター	先月下旬からこれで３件目。さらに五輪開催期間中のテロ予告。市民の不安は収まりそうにない。
報ステ	古館伊知郎	鳥の巣でまばゆいばかりの出来事と同時進行でこの事実が起きている。
	鳥越俊太郎	自爆テロという発想をもっているのはイスラム教だけ。イスラム教の分離独立を中国は相手にしなければならない。
	古館伊知郎	ある種ののろしとみていい。
	鳥越俊太郎	世界中が知ることになる。
	古館伊知郎	地下資源が豊富にあるウイグル自治区、中央のにらみがまったくきかない地方の警察等が腐敗汚職にまみれた漢民族支配の象徴である警察を狙うこういうやり方が起きた。

次にオリンピック開会式前後の「テロ・抗議」報道について述べる。北京オリンピック会期中の８月10日（日）未明、「新疆ウイグル自治区連続爆破事件」が起きた。翌11日（月）の放送では、「ニュース７」と「Japan」以外の民放３番組がこの事件を取り上げた。このニュースについてのコメントをまとめたものが図表５－10である。「23」は犯行声明を出したトルキスタン・イスラム党が五輪開催期間中にテロを予告したことを受けて、市民の不安について指摘した。「ZERO」の村尾氏は、中国当局による外国メディアに対する報道規制が厳しい一方で、オリンピックのスローガン（One World One Dream）や開会式における民族融和のパフォーマンスだけに終わらず、現実の政治において実現してほしいと述べた。

一方、ロンドンオリンピック開会式前後には大きな事件がなかったため、「テロ・抗議」に関するニュースはなかった。

図表５－11：「23」北京８月11日

図表５－12：「ZERO」北京８月11日



上述したオリンピック時の「警戒」と「テロ・抗議」についてのコメントをまとめると、２大会の共通事項は空港・駅・会場周辺の「警察・軍人」による【厳戒態勢】である。北京オリンピックについてはテロ対策やオリンピックのための【国家の規制・統制】に触れていた。また、人権問題と自治区の独立問題に対し中国当局を批判していた。ところがロンドンオリンピックでは、開会式前後に大きな事件は起こらなかったこともあり、こうした批判はなかったことが特徴である。

5. 4　開催国関連

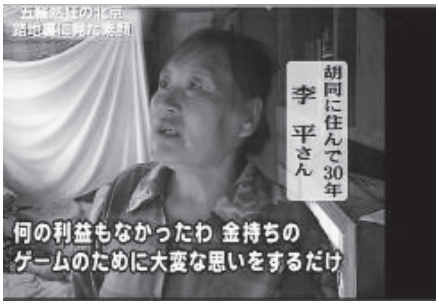
「開会式」や「競技」、「テロ・抗議」以外で開催国に関連したニュースとして２大会共通して取り上げられていたのは、【貧困】問題である。

北京ではオリンピック競技場建設や開発のために清朝から存在する胡同（図表５－15）や、出稼ぎ労働者（農民工）たちが住むスラムが強制撤去された。また、オリンピック開催までに残された胡同・スラムは壁で囲い、通りから見えないように目隠しが施された。これら胡同の

図表５－13：北京オリンピック時の貧困問題についての市民のコメント抜粋

番組	市民	コメント
23	スラムの住民（男性）	この辺はスラムだよ。オリンピックで国がお金をいっぱい出して建て直し」とか「緑化」とかするけど納得できないところもある。
	アン（スラムの住民男性）	（立ち退きたくないですか？）もちろん。長い間住んでるからね。
	小学生（少女）	前にいたところから立ち退きでここに住むようになってやっと友達ができたから引っ越したくない。
Japan	胡同住民（女性）	複雑な気持ちです。離れたくないけど（丈夫な）新しい家に住める喜びもある。
	胡同住民李平（女性）	（五輪の恩恵は？）何の利益もなかったわ。金持ちのゲームのために大変な思いをするだけ。私たちは犠牲者よ。
	農民工１（男性）	金がないんだ。オリンピックなんか見られるわけないだろ。
	農民工２（男性）	（北京市内の工事は大気汚染対策のため中止となったため）いてもしょうがないから帰るよ。
報ステ	農民工１（男性）	五輪はよくわからない。読み書きもできないし、競技もわからない。
	農民工２（男性）	仕事はないけど食事や部屋代はかかる。
	女性	こどもの世話でそれどころじゃないよ。

図表５－14：「Japan」北京８月11日



図表５－15：「23」北京８月７日

住民や、出稼ぎ労働者（農民工）が住むスラムでのインタビューをまとめたものが図表５－13である。「Japan」は胡同から強制的に退去させられる女性の「複雑な気持ちです。離れたくないけど（丈夫な）新しい家に住める喜びもある」（図表５－13）というインタビューを取り上げた。「23」は引っ越したくないというインタビューを取り上げていた。さらに、オリンピックによる経済発展の裏で、貧困に苦しむ人々の声を３番組で取り上げていた。例えば「報ステ」では「五輪はよくわからない。読み書きもできないし、競技もわからない」（図表５－13）という農民工の声を報じた。「Japan」は、オリンピックの恩恵があったかという問いに対し「何の利益もなかったわ。金持ちのゲームのために大変な思いをするだけ。私たちは犠牲者よ」（図

表５－13、５－14）という女性の切実な声を取り上げていた。このように、オリンピック会場や美しい北京の街とは全く異なる貧しい北京の模様が当事者へのインタビューを多用し報じられていた。

それらの特集に対するキャスター等のコメントをまとめたものが図表５－16である。「23」の後藤謙次氏は、オリンピック開催で北京が大きく変貌したことを東京やソウルと重ね合わせ「いつか来た道」と述べた。自ら現地で取材をした「Japan」の滝川クリステル氏は、再開発によって人情味あふれた時間や空間が奪われたが、一人一人の生きる力は失われておらず、それが今の中国を支えていると指摘した。「報ステ」の加藤千洋氏は、現地から様々な問題を取り上げ、オリンピック開催によってそれらが改善されると期待する国際社会と、改善されないと考える中国国内の考えの双方を紹介した。加藤氏のコメントを受け、東京のスタジオにいる古舘氏は、オリンピックによって中国の人々から、貧しさに対する智恵が失われたとした。堀田力氏は日本が東京オリンピック開催後に高度経済成長を果たした一方で公害問題が生み出され、学生運動等政治の動乱を経験したことを踏まえ、中国は同じ歴史を繰り返してほしくないと述べた（図表５－16）。

図表５－16：北京オリンピック時の社会問題についてのコメント抜粋

番組	キャスター等	コメント
23	後藤謙次	私もあの、東京オリンピック1964年の時にですね東京が大きく変貌したというのを目の当たりにしたんですけれども。ソウルもそうでした。なんかあの今の映像をみていますと、国家の大きな事業がある時に都市が大きく変わる、いつか来た道だなと思いました。
Japan	滝川クリステル	取材した胡同というところは、日本の長屋のようなところで、本来強い結びつきが見られるところなんですが、今回再開発によって人情味あふれた時間や空間が奪われてしまった。これは否めないと思うんです。ただ、李さんたちのように一人一人の生きる力というのはまだまだ失われていないという印象を受けましたし、そういった個人の力が今の中国を支えているのではないかと感じました。
報ステ	加藤千洋	国際社会は人権や民主化問題についてさまざまな矛盾が明らかになってよくなるのではないかという視点もあった。しかしあるインテリは「中国はとてつもなく広い海だ。そこにオリンピックというインクを一滴たらしてもそんなに変わらない」と語った。そんな視点も国内にある。
	古館伊知郎	胡錦濤政権が打ち出している和解社会、階層が和む、オリンピック大事でそういう社会を予感させるような社会とは逆にですね、今まであったであろう富める人も貧しさに対する智恵とかだんだん薄れていっているようなこわさも感じるんですよね。
	堀田力	（中略）日本はオリンピック後、高度成長のオリンピック、公害、学生運動とたどった同じようになってほしくない。

上記から各番組のキャスター・コメンテーター等は、北京の急速な発展について、日本がかつて東京オリンピック開催時に辿った道と同じであると認識していることが明らかとなった。

また、キャスター・コメンテーター等は、北京の経済発展によって失われた住民同士の絆や知恵を惜しんでいた。同時に、キャスター・コメンテーター等は、中国当局主導による強引な開発や、格差、人権問題等について、オリンピック開催によっても改善されないとしていた。しかし、「ニュース７」「ZERO」はこの問題について取り上げなかった。その他中国に関連するニュースとして、８月７日に「中国製冷凍餃子中毒事件」の続報が「ニュース７」と「23」によって取り上げられていた。

一方、ロンドンオリンピック時のキャスター等のコメントをまとめたものが図表５－17である。ロンドンの「経済活性化」（ZERO）、オリンピックの商業化や都市の消費文化（「23X」）という視点からの報道であった。したがって図表５－18、５－20にある通り、貧しい市民の声は北京オリンピック時ほど取り上げられなかった。しかし「報ステ」では、ロンドンオリンピックが経済性を重視したオリンピックであると内藤雅彦氏が指摘した。また内藤氏は、オリンピック会場となったロンドン東部地区は深刻な貧困、移民問題を抱えており、予算1.5兆円の７割を東部地区の再開発に当てたと報じた。またロンドンオリンピックのテーマについて、多民族多文化が混在する国際都市・ロンドンのパワーの発揮と、貧困問題への対応であると述べた（図表５－17）。

図表５－17：ロンドンオリンピック時の社会問題についてのコメント抜粋

番組	キャスター等	コメント
ZERO	村尾信尚	最寄りの駅からオリンピックの会場まで歩いていきますと、その間に大きなショッピングセンターがあるんです。ですからここで世界中の人にま、物を買ってもらおうというアイディアといいますか意図がねよーくわかりました。そういう意味ではロンドン経済の活性化もねらっているんですね。ですからロンドンオリンピックでいろんな効果を期待しているというのがわかります。
23X	播磨卓士	（五輪の商業化について）ロンドンのJNNの取材団によりますと、ロンドンに昔からあるカフェにオリンピックっていう名前のカフェがあるんですって。ところがやっぱ使っちゃいけないって言われて、その期間中は「O」を外して「lympic」っていう名前で営業してるっていう笑えない話もあるんですね。
	膳場貴子	冗談みたいな話ですね。ま、そこまで行きすぎちゃうと誰のためのオリンピックかなってちょっと思ったりもしますけど。
	播磨卓士	そうですね、商業化の弊害ですよね。
報ステ	内藤雅彦	貧困とそれから世界中から集まってくる移民、ここに思いっきり手を入れようというのがオリンピックのテーマなんです。古舘さん、この街には200の言語、300の異なった文化が混在しています。この多種多様な民族、多種多様なこういった人種、これが共存している国際都市のパワーを出せるかどうか。つまりイギリスがこの先どうしていったらいいのか、消費税20%の国イギリス、それからギリシャを発端にするユーロ問題を抱えているイギリス。どうしたらいいか避けて通れない道がそのままオリンピックのメインテーマになっています。

図表５－18：ロンドンオリンピック時の社会問題についてのコメント抜粋

番組	市民	コメント
報ステ	白人ビジネスマン	ここ２～３年は景気が後退していたから開催は景気の刺激になります。歓迎しますよ。
	黒人女性	東部は以前かなり荒れ果てていたから、建物やアパートが改築されたりしたことは悪くないわ。
	黒人男性	何のおこぼれがあるっていうんだ？欲しいのは仕事なんだ。

図表５－19：「報ステ」７月23日

図表５－20：「報ステ」７月23日

上記から、「開催国関連」ニュースにおいては社会問題、特に【貧困】が取り上げられるという共通点が明らかとなった。しかし、その取り上げられ方は異なり、北京では開発により生じた格差、出稼ぎ労働者問題。ロンドンでは【再開発】、【経済活性化】、移民問題に焦点が当てられていた。

6.　まとめと考察

開会式前後の量的分析から、開会式前には２大会共通して「開会式」や「開催国関連」ニュースが取り上げられるが、オリンピック開会式後には「競技」ニュースが取り上げられ、開催国に関する関心等は周縁化されることが明らかとなった。しかしながら、北京オリンピック報道では、「テロ・抗議」「開催国関連」ニュースが引き続き報道されていた。したがって、オリンピックごとのメディア・フレームが存在することが示唆された。

次に、上記の「オリンピック・開催国関連」のニュース・テクストと映像について内容分析した結果、２大会共通のキーワードが明らかとなった。それはオリンピック開会式に対する市民の【興奮・高揚】、【聖火リレー】の盛り上がり、そして「テロ」に対する【厳戒態勢】、開催国の【貧困】問題である。これらはオリンピック開会式前後に共通するニュース・フレームと思われる。これらを各オリンピックで必ず報道され、大会を要約するフレーム群とし、それぞれ「期待フレーム」「聖火リレーフレーム」「セキュリティ・フレーム」「貧困フレーム」と

する。「期待フレーム」とは、オリンピック開催を期待して待ち望む市民の様子についてのフレームである。しかし、４章の「オリンピック・開催国関連」ニュースの分析と５章のニュースのテクスト分析で既に述べたように、北京オリンピックニュースで取り上げられた市民たちの声は「中国」という国に関連づけられやすいことが明らかとなった。「聖火リレーフレーム」は開会式前に開催国の名所旧跡を走る有名人や市民の姿や関連セレモニーについて報道するフレームである。ロンドンオリンピックでは、聖火リレーのイベントに参加した英国王室メンバーと聖火ランナーの様子が報じられた。一方中国では聖火ランナーがオリンピック開催を中国の夢と述べたように国家と関連づけた発言が取り上げられていた。「セキュリティ・フレーム」とは、オリンピックが安全・無事に運営されるよう警察や軍隊による警備の様子を取り上げるフレームである。国の威信をかけて万全の体制が両オリンピックで敷かれたが、セキュリティ上の不手際、事件・事故、テロ等が発生すると、開催国の問題が明らかとなる。中国ではオリンピック開会式前後でテロが起きたことから、それに関連して中国が内包する政治問題や国家の統制に関するキャスターやコメンテーターの批判的コメントが多く取り上げられた。「貧困フレーム」とは、開催国の貧困問題についてのフレームである。開催国それぞれが抱える経済、格差などにまつわる貧困問題の背景や原因について報道するフレームである。北京オリンピックでは華やかなオリンピックの一方で、行政による強制移住で翻弄される市民の声や、貧しい出稼ぎ労働者（農民工）のインタビューが多用され、北京の貧困問題が取り上げられていた。それらに対しキャスターや識者は、かつて日本が東京オリンピックで経験した大きな変化と重ね合わせたコメントが見られた。ロンドンオリンピックでは、オリンピック開催によってロンドンの【再開発】や国際都市ロンドンを訪れる観光客増加による【経済活性化】によって【貧困】問題や「移民問題」に対応するというポジティブな側面が強調されていた。

上記４つのフレームは、各オリンピックを要約する共通フレームであるが、オリンピックごとのニュース・フレームを検討するにあたり、北京オリンピック報道における特徴的キーワードは、以下の４つである。第１に、国家の主導によるオリンピック開会式に列席するために中国を訪れた【各国首脳】である。第２に、オリンピックを成功させるための【国家の規制・統制】である。第３に、各番組によってオリンピック開催は【民族の夢】である、と取り上げられた。最後に中国が内包する【人権問題】である。これらは日本のテレビニュースが「中国」という国家に対し持つステレオタイプと重なっている。

それに対しロンドンオリンピック報道における特徴的なキーワードは、オリンピック開会式や【聖火リレー】関連ニュースで取り上げられた、日本人にとってなじみ深いエリザベス女王をはじめとする【有名人】である。また、ロンドンの【再開発】や【経済活性化】によって【貧困】問題や「移民問題」に対応することに関連して、オリンピックの「商業主義」について述べられていた。以上がロンドンという経済発展の著しい国際都市の消費文化や経済につい

ての日本のテレビニュースの描き方であった。

上記の分析から、大会毎のニュース・フレームの存在が示唆された。それは北京オリンピックでは「ナショナル・フレーム（national frame）」、ロンドンオリンピックでは「シティ・フレーム（city frame）」である。

「ナショナル・フレーム」とは、送り手の中にある当該「国」のステレオタイプを反映させたニュースの語りや映像である。ニュースに登場する人物や事象は「国」という視点から提示される。例えばオリンピックが国家主導で開催された場合にナショナル・フレームが働く。つまり、北京オリンピックニュースの場合、「北京」ではなく「中国」という語り方で提示する。また、（旧）社会・共産国家やイスラム圏の国でオリンピックが開催された場合は、「ナショナル・フレーム」で報道されると推測される。

対して「シティ・フレーム」とは、ニュースに登場する人物や事象が「都市」という視点から提示される。主として都市の消費文化や、経済、市民、ポピュラー・カルチャーという観点から映像が取り上げられ、文脈として語られる。例えばオリンピックが先進国[11] の都市や成熟した市民社会が存在する地域で開催された場合、「シティ・フレーム」で報道されると推測される。この点でロンドンオリンピックは「選手主導の五輪」（『読売新聞』2005. 7. 7朝刊）、「次の世代のための五輪」（『朝日新聞』2005. 7. 7朝刊）であり、開催は「ロンドン」という都市であることが強調されている。

これらのフレームの中で典型的に主役として描かれるのは、北京では政治家や民族の集団であるのに対し、ロンドンではイギリスのポップアイコンとスポーツ・ヒーローであった。

しかしこのようなニュース・フレームが大会毎に存在しても、開会式後には「競技」ニュースが開催地についてのニュースを無くしてしまう。量的分析結果から明らかなように、メディア・イベントとしてのオリンピックは祝祭として機能し、テレビニュースの内容はオリンピックの「スポーツ」ニュースが大きく取り上げられ、その他のニュースを周縁化してしまうことが明らかとなった（中 2009；中・日吉・小林 2015）。

今後の課題として、北京・ロンドンオリンピック開会式前後に共通する大会を要約する４つのフレームとオリンピックごとのニュース・フレームが他の大会でも普遍的に使用されるフレームであるかどうか検証が必要である。この検証のためにリオ・デ・ジャネイロオリンピックのテレビニュース調査を行う予定である。調査対象は日本のテレビニュースであるが、他国の報道内容の分析も視野に入れ調査設計をしていきたい。

11）内閣府「世界経済の潮流」では先進国を「OECD加盟国。ただし、一人当たりGDP（2010年、市場レートベース）が１万米ドル以下の国（チリ、トルコ、メキシコ）を除く」と定義している（内閣府2014）。この定義による先進国は31か国が該当する。例えばアメリカ、イタリア、英国、オーストラリア、カナダ、韓国、ギリシャ、スイス、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ドイツ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、フランス、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、ルクセンブルグ等の国々である。

謝　辞

本研究は、科学研究費補助金基盤研究Ｃ（課題番号25380666、代表 静岡大学 中 正樹）の助成を受けたものである。

参考資料

BBC WORLD SERVICE POLL, 2009, *Views of China and Russia Decline in Global Poll*（2016年５月17日取得，http://www.worldpublicopinion.org/pipa/pdf/feb09/ BBCEvals_Feb09_rpt.pdf）.

BBC WORLD SERVICE POLL, 2013, *Views of China and India Slide While UK's Ratings climb: Global Poll*（2016年 5 月17日 取 得，http://www.worldpublicopinion.org/pipa/2013%20Country%20Rating%20Poll.pdf）.

Dayan, Daniel and Katz, Elihu, 1992, *Media events: the live broadcasting of history*, Harvard University Press（＝1996，浅見克彦訳『メディア・イベント　歴史をつくるメディア・セレモニー』青弓社）.

Eileen Kennedy and Laura Hills, 2009, *SPORT, MEDIA AND SOCCIETY*, Berg.

Entman, R. M., 1993, "Framing: Toward clarification of a fractured paradigm" *Journal of Communication43*（４）：51-58.

Gamson, W. A., and Lasch, K. E., 1983, "The political culture of social welfare policy", In S. E. Spiro & E. Yuchotman-Year (Eds.), *Evaluating the welfare state: Social and political perspectives*, Academic Press：397-415.

Gitlin, T., 1980, *The whole world is watching*, University of California Press.

Goffman, E., 1974, *Frame analysis: Anessay on the organization of experience*, Harvard University Press.

Lilleker, D. G., 2006, *Key Concepts in Political Communication*, Sage Publications Ltd.

Nelson, T.E., & Willey, E. A., 2001, "Issue frames that strike a value balance: A political psychology perspective", In S.D. Reese, O. H. Gandy, Jr., &Grant (Eds.), *Framing Public life : Perspectives on media and our understanding of the social world*, Routlege:245-266.

Scheufele,D. A., 1999, "Framing as a theoly of media effects", *Journal of Communication49*（１）：103-122.

飽戸弘・原由美子，2010,「相手国イメージはどう形成されているか―日本・韓国・中国世論調査から（その２）」『放送研究と調査』８月号：56-87.

阿部潔，2008,『スポーツの魅惑とメディアの誘惑　身体／国家のカルチュラル･スタディーズ』世界思想社.

飯田貴子，2002,「第４章　メディアスポーツとフェミニズム」橋本純一編，『現代メディアスポーツ論』世界思想社：71-90.

茨木美子，1993,「メディア・フレームに関する実証的研究：新聞は“五打席連続敬遠”をどのように報道したか」『年報社会学論集』第６号：239-250.

大石裕，2007,「メディア・フレームと社会運動に関する一考察」『三田社会学』第12号：19-31.

鬼丸正明，2005,「メディア・スポーツと映像分析：予備的考察」『一橋大学スポーツ研究』(24)：13-20.

海後宗男・宮川歩・飯高俊和他，2007,「法律情報番組のメディア・フレームに関する探索的研究」『論叢現代文化・公共政策』（６）：17-35.

金山智子，2007,「外国人にみる越えの多様性―サウンドバイト分析」荻原滋編著，『テレビニュースの世界像―外国関連情報が構築するリアリティ』勁草書房：69-93.

上瀬由美子，2007,「北京オリンピックにおける外国関連報道―テレビニュースに現れるライバル･フレーム」荻原滋編，『テレビニュースの世界像―外国関連報道が構築するリアリティ』勁草書房：271-290.

――――・荻原滋・李光鎬，2010,「北京オリンピック視聴と中国・中国人イメージの変化『メディア・コミュニケーション』No. 60：67-88.

鳥谷昌之，2001,「フレーム形成過程に関する理論的一考察―ニュース論の統合化に向けて」『マス・コミュニケーション研究』No. 58：78-93.

神原直幸，2001,『メディアスポーツの視点』学文社.

小林直美，2009,「Ⅳ　北京オリンピック開催期間におけるテレビニュース内容分析2．開会式の内容分析.」『武蔵大学　総合研究所紀要』第18号：57-67.

小玉美意子，2009,「Ⅱ　北京オリンピック前後における視聴者の対中国意識調査２」『武蔵大学　総合研究所紀要』第18号：29-37.

竹下俊郎，1998,『メディアの議題設定機能―マスコミ効果研究における理論と実証』学文社.

内閣府，2014,「世界経済の潮流　2014年Ⅰ新興国経済のリスクと可能性」(2015年２月25日取得，http://www5.cao.go.jp/j-j/sekai_ chouryuu/sh14-01/index.html).

中　正樹，2009,「Ⅵ　北京オリンピック開催期間におけるテレビニュース内容分析1．ニュース内容の量的分析.」『武蔵大学　総合研究所紀要』第18号：57-67.

――――・日吉昭彦・小林直美，2015a,「ロンドンオリンピック開催期間における日本のテレビニュース報道に関する内容分析」『ソシオロジスト』No. 17：147-182.

――――・日吉昭彦・小林直美，2015b,『平成25～27年科学研究費補助金基盤研究C研究成果報告書　ロンドンオリンピック開催期間における日本のテレビニュース報道　北京オリンピック開催期間におけるテレビニュース報道との比較を通して』国際テレビニュース研究会.

永吉希久子，2006,「オリンピック関連記事にみられる国家意識の変容」『年報人間科学』27巻：87-105.

萩原滋，1993,「フレーム概念の再検討　実証的研究の立場から」『三田社会学会』第12号：43-59.

原由美子・塩田雄大，2000,「相手国とイメージメディア―日本・韓国・中国世論調査から」『放送研究と調査』３月号：２-23.

日吉昭彦，2015,「Ⅱ　ロンドンオリンピックをめぐる英国報道の背景」中　正樹・日吉昭彦・小林直美,『平成25～27年科学研究費補助金基盤研究C研究成果報告書　ロンドンオリンピック開催期間における日本のテレビニュース報道　北京オリンピック開催期間におけるテレビニュース報道との比較を通して』国際テレビニュース研究会：７-20.

森野聡子，2012,「ロンドン・オリンピック開会式に見る『ブリティッシュネス』：マルティカルチュラリズムから『多様なる労働者の結束』へ」『静岡大学情報学研究』(18)：１-18.

莫广瑩，2007,「日本語記事のフレーム･マッピング法」『マス･コミュニケーション研究』No. 70：117-137.

山田亜樹・酒井芳文・諸藤絵美，2007,「多様化か画一化か～『日本人の好きなもの』調査から」『放送研究と調査』12月号：２-35.

News Frames around the Opening ceremonies of the Beijing Olympics and the London Olympics : A Content Analysis of Japanese Television News Coverage

Naomi Kobayashi

For this research, I analyzed the television news content of five Tokyo-based Japanese network news programs. The scope of this analysis was the entirety of these programs' news coverage around the Opening ceremonies of the Beijing Olympics and the London Olympics. Well-trained coders coded these data. In addition, I analyzed the video and narration on news coverage around the opening ceremonies and added discourse analysis. And I also compared results of the Beijing Olympics with analysis results of the London Olympics.

News coverage around the time of the opening of the Beijing Olympics framed the Games against the background of The Great Wall of China as the realization of a 'Chinese dream' and an achievement on the part of the Chinese as an ethnic group. In addition, there was frequent coverage regarding the visits of Chinese politicians and world leaders to the venue. In the case of the London Olympics, Japanese reporters against the background of Big Ben framed the Games there in terms of economic redevelopment and rejuvenation opportunities, focusing on their 'commercial' aspects. There was also frequent coverage of British popular culture celebrities. Those keywords were reflective of commonly held Japanese stereotypes regarding the two countries.

Results of the news text analysis carried out for our research revealed the existence of 'national frames' and 'city frames'. Beijing Games coverage was informed by a 'national frame' emphasizing imagery such as Chinese leader Hu Jintao and symbols identified with Chinese national identity, whereas in London Games coverage there was no such emphasis on the United Kingdom as a nation. In contrast, the 'city frame' informing London Games coverage emphasized the culture of the city as symbolized in the reactions of its citizens, whereas Beijing Games coverage paid almost no attention to the host city itself.